

September / October  
2021 No.13

A News letter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

## 業務中間レビュー

本事業(2019年11月から2022年11月の3年計画)の2年目の終了を迎えるにあたり、2021年10月15日、カンボジア産婦人科学会(SCGO)と日本産科婦人科学会(JSOG)の理事らで中間レビューが行われました(日本側は、大須賀渉外担当常務理事、永松医師、矢内原医師、藤田医師、小原医師、神田助産師、春山が参加)。

はじめに、SCGO カナール理事長より、事業の概要(目標、対象、想定される成果と活動)および2年間に実施された活動について説明がありました。2019年11月の事業開始直後に新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まり、2020年1月末から渡航制限、その後カンボジア国内のデルタ株感染拡大による学校閉鎖や緊急時以外の病院受診制限も重なり、学校教員対象の健康教育から検診へという当初計画していた活動に遅れがある状況であることが共有されました。しかしそのような中でも、健康教育教材の準備、教育省関係者への啓発、HPV検査機器の設置・技師研修、学会ウェブサイト改善など、進められる活動はJSOGの技術支援を得つつ進めてきたことの説明および、JSOG医師によるオンライン講義や子宮がん検診結果分析への技術指導について謝意が述べられました。今後、引き続きオンラインで健康教育の準備や医師への講義を続け、学校が再開し、病院での検診が可能になれば健康教育から検診へと進めていきたい、という意向が共有されました。

カンボジアでは4月以降新型コロナワクチン接種が進み、小学校児童(6歳以上)への接種も開始されたので、来年になれば社会活動が再開されるかもしれないことです。カンボジア国内の感染が収束し、渡航前後の隔離期間の短縮が進めば、カンボジアへの短期渡航も可能になるかもしれません。それまで、引き続き遠隔での技術支援を続けていきたいと思えます。

国立国際医療研究センター 春山 怜



ウェブ会議時のスクリーンショット

## 過去半年の新型コロナウイルス感染症の事業に対する影響と 今後に向けての希望の持てる兆し

2019年11月から開始された本事業について、計画されている活動については、可能な限り対応を工夫し実施してきています。しかしながら、2020年度に比べ、2021年度(4月から10月)は、事業を進めることが難しい状況でした。これは、本年度前半はデルタ株の影響により、カンボジアにおける市中感染・新規感染者数が多い状況が継続したためです<sup>①</sup>。

プノンペン市内での感染予防対策が強化され、ロックダウンなどの措置がとられ、小学校閉校や集会人数制限が継続し、医療従事者が関連業務で多忙となるなど、多様な影響がありました。特に、過去半年、新型コロナウイルス感染症が本事業の関係者にどういった影響を与えたかについて、この記事で振り返りたいと思います。

事業関係者	影響と状況
日本産科婦人科学会 学会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年11-12月には現地短期渡航しての技術指導が可能であったが、2020年以後は現地渡航できず遠隔(ウェブ会議や電子メール)で事業管理、技術指導を継続。</li> <li>● ウェブ会議を開催できるよう2020年度中に現地の環境を整えたことから、2021年度は日本人専門家と現地産婦人科医間のウェブ会議は円滑に実施できている。</li> <li>● 現在、3か月未満の短期現地滞在での専門家渡航に制限があるが、今後、両国の検疫措置の緩和に伴い、現地短期渡航が行いやすくなることが想定される。</li> </ul>
プノンペン市内小学校 と小学校教員  教育省や市教育局の 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校が一時的に開いた2021年2月に、教員管理者や教育省関係者を対象としての啓発会合を開催することができた。しかし、その後、再び閉校したため、教員への子宮頸がん検診についての健康教育提供に関し、協議や具体的計画に進むことが困難だった。</li> <li>● 9月にカンボジア産科婦人科学会(SCGO)が教育省関係者と協議をしたところ、開校準備で多忙となり、オンラインであっても健康教育実施は当面困難という回答だった。</li> <li>● 10月末には、6歳以上のこどもの新型コロナワクチン2回接種率が8割をこえ、閉校措置が解除となる自治体もでてくる。今後、状況をみて教育省関係者とSCGOが協議を開始することが望まれる。</li> </ul>
プノンペン経済特区 内工場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場におけるクラスターの発生があることから、工場従業員対象とした健康教育活動を進めることも困難。</li> </ul>
事業対象の国立病院 とそれらに勤務する 産婦人科医	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立病院勤務の産婦人科医らは新型コロナ対応(臨床、ワクチン接種業務)による多忙な状況が続いている。また、国立病院は新型コロナ陽性者の受け入れ施設であることから、検診の勧奨を保健省より止められている。本事業対象の教員に対する検診実施は当面困難な状況である。</li> </ul>
カンボジア産科婦人科 学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン形式やハイブリッド方式による学会員対象の会合は実施可能であり、集会可能人数を遵守したうえで今後も行っていくことができる見込み。</li> </ul>
現地事業事務所(カ ンボジア産科婦人科 学会事務局)スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現地事業事務所がある国立母子保健センターにおいて、5月に職員の集団感染(ワクチン接種後のブレイクスルー感染)があり、スタッフを自宅勤務とした。同センターでは、コロナ陽性症例の入院・出産があることから、現在も原則自宅勤務を継続し必要時のみにオフィス勤務としている。</li> </ul>
日本人調整員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現地在住の日本人調整員を見つけることが困難であり、日本より遠隔で連絡調整支援を実施している。</li> </ul>

このように、新型コロナ感染流行の事業関係者に対する影響は大きく、事業を進めるのに時間がかかっています。そんな状況ではありますが、今後事業を進めやすくなるかもしれない、期待がもてる3つの点を強調したいと思います。

①カンボジアにおける新型コロナワクチン接種状況は10月末時点で、2回接種者は人口全体の8割近くであり<sup>②</sup>、近隣国に比べ相当接種完了割合が高い状況で、感染予防措置緩和の方向のようです。こどもへのワクチン接種も順調に進んでおり、小学校は11月から再開される方針との現地ニュースがあります。

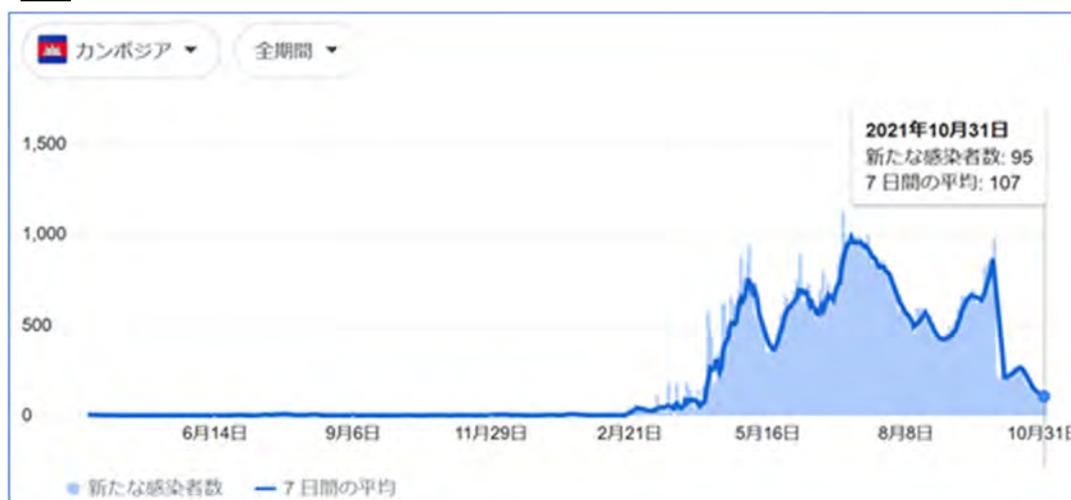
②10月中旬より、カンボジア入国時検疫方針が変更となり、ワクチン接種2回完了者に対する隔離期間が3日に短縮されました。

③SCGOは、限られた年限の事業の時間を無駄にたくはないとして、状況がゆるせば健康教育に進みたいが、それまでの間は、SCGO会員により可能な活動を進め準備をしておきたいと言っています。

これら明るい兆しやSCGO側の意気込みもあり、事業開始から3年目となる2022年には、主たる活動である小学校教員対象の「子宮頸がん検診についての健康教育」を開始でき、そして、日本人専門家の短期渡航により、対面での技術指導により事業を加速させられるようになることを期待しています。

国立国際医療研究センター 小原 ひろみ

図1 カンボジアにおける新型コロナウイルスの新規感染者登録数の推移



図出典：Google 新たな感染者数（2021年11月1日アクセス [URL](#)）（なお9月20日より新規登録定義の変更あり、PCR陽性症例のみの登録。以前の登録には簡易検査結果なども含まれていた模様）

オリジナルデータ出典：COVID-19 Data Repository by the Center for Systems Science and Engineering (CSSE) at Johns Hopkins University

図2 カンボジアにおける新型コロナウイルスワクチン接種状況



図出典 Google ワクチン接種(2021年11月1日 アクセス [URL](#))

オリジナルデータ出典： Our World in Data

Khmer Times ウェブニュース記事 All schools to reopen, with strict measures in place, from Nov 1

<https://www.khmertimeskh.com/50956598/schools-to-reopen-with-strict-measures-in-place-from-nov-1/>

在カンボジア日本大使館 カンボジア入国時における措置(2021年10月18日更新)

[https://www.kh.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/b\\_000652.html](https://www.kh.emb-japan.go.jp/itpr_ja/b_000652.html)